

みんなで、家族で、
地域で、防災について
考えます。

防災だより

第8号

令和6年2月1日発行

文責 金野

の とはんとうじしんはっせい 能登半島地震発生

何を考え、行動しましたか？（行動しますか？）

令和6年元旦。午後4時10分頃、石川県能登地方を震源とする最大震度7の地震が発生しました。多くの建物が倒壊し、火災や津波も発生しました。水道や電気、ガスなどのライフライン、道路や鉄道、空港などの交通インフラも大きな被害を受けました。

ほとんどの家庭でゆったりと過ごしていたであろう元旦の午後に発生した大災害。テレビのニュースから送られてくる映像を見て、みなさんは何を考えましたか。

★過去の災害を思い出した

⇒被害の様子は阪神淡路大震災に似ています



| | 阪神淡路大震災 | 東日本大震災 | 能登半島地震 |
|-------------|--|--|---|
| 発災日 | 1995年1月17日（火） 午前5時46分 | 2011年3月11日（金） 午後2時46分 | 2024年1月1日（月・祝） 午後4時10分 |
| 地震の規模 | マグニチュード7.3 | マグニチュード9.0 | マグニチュード7.6 |
| 死者 行方不明者 | 6,434名 3名 | 19,392名（関連死含む） 2,523名 ※2023年3月10日現在 | 238名（関連死含む） 19名 ※2024年1月31日現在 |
| 主な特徴 | ・都市部での地震 ・亡くなった方のほとんどが家屋の倒壊、家具の転倒による被害。 | ・三陸沿岸での地震 ・巨大津波による被害。 ・原子力発電所の事故による被害。 | ・半島部での地震 ・家屋の倒壊などの建物被害や土砂崩れによる道路の寸断が多い。 ・津波も発生した。 |

★防災用品を備えようと思った⇒日常生活プラス α



防災用品も様々です。最近では、「備えない防災」「フェーズフリー」という言葉もよく聞きます。これは、非常時を特別なものと考えず、日常生活でも非常時の生活でもどちらも活用できるように身の回りの物や行動の仕方を見直す考え方です。できることから少しずつ備えていきましょう。

「備えない防災」の例

- ◆「ローリングストック」・・・普段よく食べるもの（水や缶詰、レトルト食品、チョコなど）をちよつと多めに買い備蓄品とする。賞味期限の早いものから食べ、すぐに買い足す。
- ◆自動点灯ライト・・・家の内外に設置する。（防犯対策にもなります。ソーラー発電タイプがおすすめです。）

<小学生にもできること>

- はきものをそろえる。部屋を片付ける。
- 次の日の準備を素早くする。（学用品、服、水筒）
- 衛生用品をもつ。（ハンカチ、ティッシュ、マスク）
- 係活動や家の手伝いを進んで行う。
- 友達や地域の人々にあいさつをする。
- 困っていることがあったら、助けを求める。

★避難方法を確認しようと思った⇒家族で確認しよう

避難場所や避難ルートなどを確認しましょう。特に、家で子どもだけで過ごしているときに地震が起こったらどうするのか、家族で話し合っておきましょう。

もしも、授業中、巨大地震が起こったら・・・

- 1 机の下にかくれる。
- 2 校庭に避難する。
(建物に大きな被害がない場合)
- 3 体育館や教室で待機する。
- 4 おうちの人に引き渡し ⇒ 下校する。

=引き渡しについて=

- ・「安心でんしょばと」で連絡
(連絡できない可能性もあります)
- ・余震や通学路の状況により、引き渡しをせず、学校に留まる場合もあります。
- ・あわてずに来校してください。



※災害時、東山小体育館は「地域避難所」になります。災害用電話や発電機、毛布などが防災用品として備わっています。乾パンなどの備蓄食料はありません。(今後の課題です。)

★当たり前の生活は、当たり前ではないと思った ⇒周りの人に感謝し、今できることを全力でがんばろう